

# SSW 通信 No.14 2025年12月

スクールソーシャルワーカー 田仲 輝男

「俺は植木じゃねえ！」

…あなたの言葉は通じていません…



○2025年が早くも終わろうとしています。AINSHUTAINは言及していませんが、時間はその人の年齢によって過ぎる速さが違うのです。15歳の少年の1年は彼が生きてきた時間のうちの十五分の一、70歳の老人の1年は七十分の一になりますから、彼らの間には時の流れに約5倍の差があり、5倍重さが違うのです。私の時間が今より遅く流れていた50代前半、私は那須学園(児童自立支援施設)で育成課長(児童生活指導担当課長)を務めました。新入生が来ると、園長室で保護者と共に入所に当たっての説明をします。保護者には「那須学園職員と共にこの子を育てていく、という同等の立場でいてほしい。那須学園に希望があったら言って欲しいし、こちらも保護者の方にはこうしてほしい、ときちんとお願ひする」新入生には「今までの生活を振り返って、自分のことをしっかりと考えてほしい」「様々なことを体験して様々なことができるようになってほしい」「いじめなどはさせないので、不安なことがあつたら必ず職員に話してほしい」というようなことを話しました。入所児童は全員寮生活をしています。毎晩就寝前に反省会があり、児童一人ひとりが今日の反省を述べ、最後に遅番職員と宿直職員から一言アドバイスをしていました。「田仲課長、さっきの反省会の話、良かったです。使わせてもらいます」と若手職員に言われることもあり、児童指導でも失敗が無くなっていました。そんな時期、暴力行為が理由で中2男子が入所しました。彼のIQは100近くありました。いつものように私は園長室で彼に入所に関する説明をしていました。保護者は来ていませんでした。服装も髪の毛も乱れ、椅子に浅く腰かけて足を投げ出し、不貞腐れた態度で話を聞く彼に「ここでは髪の毛を短く切り（坊主頭にはしないが）、服のボタンを留めてズボンをあげさせる。外見を制限して内面を鍛えてもらう。外の植木を見てごらん。ここに植えられたばかりだ。枝は落とされ、添え木で支えられている。この木に今大切なのは、見えていない根をしっかりと育てること。君も同じだ。自分自身に栄養を取り込む根をしっかりと張らせることが必要だ。添え木は職員。君が根をしっかりと張らせることができたら、添え木である職員は必要ない。その時はもう葉が茂っていて、花が咲き、退園する時だ」良いたとえ話じゃないか、とほほ笑む私に彼が一言「俺は植木じゃねえ！」…「そうだよね…」まだまだ子どもたちから教えてもらう必要がありました。修行が足りませんでした。緊張している彼に冷静に考える余裕は無かったのでしょう。例え話も難し過ぎました。今思えば、彼はアスペルガー症候群(今は「自閉スペクトラム症(ASD)」として一つの疾患概念に含められている)だったのかもしれません。他人とのコミュニケーションに悩み、人間関係に破綻をきたして暴力行為に走ったとも考えられます。アスペルガー症候群の方が暴力的というわけではありませんが、例え話は通じません。「私があなただとしたら…」「あなたは私じゃないよね」「だから、例えだよ、例え私があなただとしたら、こうしたと思うんだ」「だからさ、あなたは私じゃないでしょ？」「…」自閉スペクトラム症の発生率は国によって異なりますが、少なくとも250人に1人がアスペルガー症候群の特性を持っていると推定されているようです。「植木じゃない」彼には、もっと具体的で直接的な言葉かけが必要だったのでしょう。

私が児童養護施設で働いていた時、希望する入所児童に勉強を教えていました。総じて学力が低かったため、学力の向上が必要と感じたからです。「勉強ができるようになりたい」という気持ちも感じられました。虐待によって親元から離された中3女子に勉強を教えていた時です。「ちッ！よく分かんねえよ！」「何い～！！」「教え方が悪いんだよ！」…「…そうだよな、教え方が悪いんだよな、だから分からんんだよな。教え方考えるよ」まだまだ子どもから教えられます。子どもに話が通じないのはあなたの言い方、伝え方に問題があるのかもしれません。